

## ご挨拶

日本免疫病治療研究会  
会長 西原 克成

平成15年度には1月26日に第4回日本免疫病治療研究会が行われ10月4日には日本免疫病治療・アート研究会共催の講演会を開催致しました。本年度は二つの会の講演論文集と抄録集を合わせた講演全記録をまとめました。

心の宿る臓器が明らかになれば次は心と精神の病の謎解きに挑戦しなければなりません。心が腸管内臓系にやどることが明らかになると、まず疑問となるのは中枢神経系の脳や脊髄神経は心や精神とどう関係しているのかということです。常に系統発生の源に遡って考えるのが形態学（ゲートの創始）の基本です。最も原始型の動物の神経とは何かと言えば筋肉のシステムです。神経は筋肉と一体のユニットとしてはじめて機能します。筋肉のアクチンとミオシンとATPおよび知覚神経と運動神経の抹消神経と中枢神経の三通りの単位で一つのユニットを形作ります。つまりこの神経・筋肉ユニットは動物が生きて行くうえで筋肉のアクチン・ミオシンATPaseというエネルギー代謝のシステムを有効に動かすべく発達したものです。

脳・脊髄神経はヒポクラテスがすでに約2,500年前に述べている通り、外界と生命の本体の腸管内臓系との仲立ちをする窓口となる電気配線系と電極にすぎないものです。これが本当かどうかを検証するには移植実験が最もたやすいことです。脳を移植しても何事も変わりませんが心臓や肺・肝臓や骨髄造血巣を大量に移植すれば、心はドナーのものに変わってしまいます。心が生命の本体の腸管内臓系の平滑筋の運動に宿るとすれば、精神はどこに宿るのでしょうか？精神は身体の外殻を形成する体壁系の筋肉運動に宿ります。それが内臓死によって心と魂の活動が止まってしまった体を古代人は無き殻と呼んだのです。大脳辺縁系の内臓脳で思考し本質を把握したのが古代人です。

従来は、脳の研究は脳だけを取り出してあれこれ研究して来ましたが、何が何だかさっぱり訳がわからなくなってしまったのです。そもそも神経とは何のシステムでしょうか？神経とは筋肉を動かすシステムです。従ってニューロンと筋肉（平滑筋・横紋筋）はそれぞれまとまった神経筋肉システムなので、それぞれ一まとめのユニットとして考えなければなりません。脳神経の要の大脳皮質には内臓脳と体壁脳があります。原始型のサメの大脳の殆どすべては内臓脳ですが、サメが上陸して血液循環系が飛躍して細胞呼吸が激増する哺乳類型爬虫類では、体壁系筋肉運動の錐体路系が発達し、同時にあらゆる臓器に侵入する毛細血管の血管運動神経とともに神経筋から発生する中胚葉性の交感神経が発生します。この交感神経系だけは内臓脳・体壁脳の二つの脳神経の支配をともに受けません。ここに精神と思考の能力が随伴して生じます。

原始系の体壁神経系は殆どは錐体外路系のみと言って良く、内臓神経系は副交感神経だけだったのです。当然内臓脳（大脳辺縁系）は錐体外路系の横紋筋肉および腸管内臓系の平滑筋と結びついて一つのユニットを形作ります。体壁脳は交感神経系とともに体壁系横紋筋肉系と結びついて一つのユニットを形作ります。このそれぞれのユニットか両方のユニットのエネルギー代謝が障害されると心の病や精神の病を発症します。エネルギー代謝の9割はミトコンドリアが担当しますから、脳

脊髄神経細胞と体壁筋肉細胞および腸管平滑筋肉細胞のミトコンドリアのエネルギー代謝が様々な程度に障害されたのが精神神経疾患です。ミトコンドリアは太古の原生動物の過程で真核生物に寄生した原核生物ですから、核とは半独立性の核酸を持ち独自の増殖をし、独自の蛋白質合成系を持っています。そして母系の細胞質遺伝をします。

細胞内の小器官のミトコンドリアが障害されるのは大略三種あります。まず腸の過冷のアイスクリームや冷たい物中毒と骨休め不足の重力エネルギー過重つまり寝不足です。腸が冷えたり重力エネルギー過剰で細胞小器官がくたばります。次いで無害の常在性の腸内細菌の細胞内感染症があります。これは一つの口呼吸習慣による好気性腸内細菌やウイルス、マイコプラズマ等の不顕性感染ないし冷たい物中毒によるGALTからの嫌気性腸内細菌の不顕性の感染です。これ等はすべてGALTからの白血球への細胞内感染によって体中の細胞に細菌がばらまかれる結果起こるものです。細胞内感染により細菌がミトコンドリアに必須の酸素や栄養をすべて横取りしてしまいます。三番目が重金属や毒性物質の脳細胞への沈着ですが、いずれにしても腸を過冷にしなければ難を免がれることが出来ます。

冷血動物や下等な哺乳動物と高等な哺乳動物との大きな違いは細菌に対する白血球の消化力の違いです。この白血球の消化力が、いわゆる免疫力と呼ばれるものです。高等哺乳動物の免疫力には温度依存性があります。そして体温を産生するのがエネルギー代謝の細胞小器官ミトコンドリアで、ミトコンドリアの正常な機能が温度に依存しています。すべての精神神経疾患患者は低体温です。低体温になると細胞呼吸のエネルギー代謝が障害され細胞内に感染した細菌やウイルスを消化したり同化することが出来なくなります。神経・筋肉ユニットの細胞群に無害の腸内細菌やウイルスが共生するのです。すると細菌がミトコンドリアに必要な酸素や栄養を横取りしてしまいます。それでエネルギー代謝がうまくいかなくなるのです。これが精神神経系および心の病気です。大量のアイスクリームを常食とすると腸の温度が10度Cぐらい下がります。すると腸粘膜上皮や神経細胞のミトコンドリアが活動できなくなり、やがて崩壊します。これが神経細胞のアポトーシスの引き金となっていると考えられます。